

令和7年度京都市立芸術大学芸術資料館展覧会 第4期

「卒業作品回顧展－この学舎で君たちは何を見つけたか－」

この度、京都市立芸術大学芸術資料館では、学生たちの学びと創造の軌跡を紹介する「卒業作品回顧展」を開催します。

令和7年に創立145年を迎える本学は明治27年に作品買い上げ制度を設置し、卒業作品の購入もこの年から始まり現在に続いています。初めは日本画や工芸図案が中心でしたが、戦後、教育内容の多様化が進むにつれて、洋画や彫刻、陶磁器、染織など新たな分野が加わり、表現の世界もより豊かで多彩なものへと広がっていきました。

本展では、美術史に名を刻んだ作家から、将来を担う若き才能まで、各時代を彩る個性豊かな作品を通して、本学の芸術教育とその歩みを振り返ります。



本多貞翠《正遷宮》 1914年

【展覧会概要】

- 会期 令和7年12月13日（土）～令和8年2月11日（水・祝）
- 会場 京都市立芸術大学芸術資料館展示室
- 開館時間 午前10時～午後5時
- 休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日休館）、年末年始（12月27日～1月5日）、1月23日～25日
- 入場料 無料
- 展示作品 徳岡神泉《水汀》1914年、本多貞翠《正遷宮》1914年、石原友明《Self Portrait》1983年、三宅砂織《水たまり》2000年ほか
- 関連事業 ギャラリートーク（本展担当学芸員による展示解説）
令和7年12月16日（火）午後0時15分～午後0時45分